

平成 30 年 10 月 27 日

(あて先) 一宮市長

<申請者>

所在地 一宮市新生四丁目1番7号

団体名 NPO 耐震化推進グループ

代表者 職・氏名 会長 大森 裕之

### 一宮市市民活動支援金交付申請書

一宮市市民活動支援金の交付を受けたいので、一宮市市民が選ぶ市民活動に対する支援に関する条例第5条の規定により、下記のとおり申請します。

記

1 事業の名称	たいしん 「耐震」の意義と必要性を伝える事業		
2 事業の分野  〔主たる分野を一つ 選択し、○で囲んで ください。〕	保健・医療・福祉 観光の振興 環境の保全 人権・平和 子どもの健全育成 経済活動 NPO支援	社会教育 農山漁村・中山間地域振興 災害救援 国際協力 情報化社会 職業能力・雇用機会 その他( )	<input checked="" type="checkbox"/> まちづくり 文化・芸術・スポーツ 地域安全 男女共同参画 科学技術 消費者の保護
3 支援金交付申請額	563,600 円		

(算出基礎)

事業に要する経費 (a)	845,400 円
事業に要する経費のうち対象となる経費 (b)	845,400 円
当該事業によって得られる収入 (c)	0 円
支援金交付申請額※ 上限: 「(b) × 2 / 3」 または 「(a) - (c)」 のいずれか高くない方	563,600 円

※ 1 円未満切捨て

4 添付書類

- (1) 一宮市市民活動支援に係る団体調書 (様式2)
- (2) 一宮市市民活動支援金申請事業に係る計画書 (様式3)
- (3) 一宮市市民活動支援金申請事業に係る収支予算書 (様式4)
- (4) 団体の規約その他これに類するもの



備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4 (片面印刷) とする。

## 一宮市市民活動支援に係る団体調書

団 体 名	NPO 耐震化推進グループ		
市内事務所の所在地	〒491-0912 一宮市新生四丁目1番7号		
代表者 職・氏名	会長 大森 裕之		
設 立 年 月	平成 18 年	6 月	構成員の人数 8 人
U R L	http://sites.google.com/site/tsg138		
連 絡 先 ※この申請に関する 問合せに対応できる方	(担当者氏名) 大森 裕之		
	電 話	0586-86-3734	F A X 0586-86-4724
	E-mail	ohmori@aimilc.ne.jp	
団 体 の 目 的	一宮市内の建築物の耐震化を推進し、地域民の防災推進に寄与することを目的とする。		
主 な 事 業 内 容	耐震化の必要性を伝えるために、ストローハウス作り体験、ストローハウス講座、耐震相談会などを行なっています。		
主 な 活 動 の 実 績	平成 22 年から毎年 いちのみやリバーサイドフェスティバルや修文祭でストローハウス作り体験を開催し、「耐震」に興味を持ってもらっています。また、ストローハウス講座では、チラシ・耐震グッズを配布して、「耐震」や「転倒防止」の必要性を説明しています。さらに平成 23 年から毎年、耐震相談会を開催して、市民に利用していただいています。		
今 年 度 予 算 額	850,000 円	昨 年 度 決 算 額	849,723 円
条例第2条第3項に掲げる要件について	<input checked="" type="checkbox"/> すべて満たしている ・ <input type="checkbox"/> 一部または全部満たしていない		
市からの他の補助金等の有無	有（補助金等の名称： ） ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無		

一宮市市民活動支援事業に係る計画書

<p>団体名</p>	<p>NPO 耐震化推進グループ</p>
<p>事業の名称</p>	<p>たいしん 「耐震」の意義と必要性を伝える事業</p>
<p>事業の内容</p>	<p>(1) 実施期間（準備期間や後処理期間も含めてください） 平成31年 4月 1日 ～ 平成32年 3月 31日</p> <p>(2) 実施場所 一宮市内の138タワーパーク・修文大学・一宮市役所・公民館・集会所など</p> <p>(3) 受益対象者 一宮市在住の方 例) ストローハウスを作ってみたい方、耐震について知りたい方、耐震診断、耐震改修工事、住宅の解体、ブロック塀について知りたい方</p> <p>(4) 実施体制 NPO耐震化推進グループのメンバーがストローハウス講座の講師・補助員、耐震相談会の相談員を勤めます。</p> <p>(5) 具体的な内容 ストローハウス講座では地震の話をしてできるだけわかりやすく説明します。興味が持てる様に、講座の前半は写真や副読本を見ながら、いのちの大切さ・三つの地震・家具の転倒防止についてお話します。講座の後半は、ストローとクリップを使って簡単な家の模型を作り、家を強くするための勉強をします。パソコン、プロジェクター、ビデオなどを使って、目で見てわかる様にします。講座の終わりに、耐震パッドや呼子笛などを配布します。</p> <p>ストローハウス作り体験は、誰でも参加できるようにしました。気軽にストローやクリップを手にとってもらい、ストローで三角形を作れば強くなるということを体験してもらいます。</p> <p>耐震相談会は、一般的な耐震改修方法や住宅の解体などについて説明します。また、無料耐震診断の申込みも受け付けます。</p>

備考1 用紙の大きさは、日本工業規格A4（片面印刷）とする。

備考2 ページ数は2ページまでとする。

<p>事業のふりかえりとその生かし方</p>	<p>メンバー全員が仕事をしながらの参加ですので疲れてきています。将来的に耐震相談会だけにするか、ストローハウス作り体験だけにするか、的(まと)をしぼる必要があります。仕事をしながら、活動を継続する難しさを実感しています。</p>	
<p>当該事業を実施する理由</p> <p>※目指す地域・社会像や、事業を実施することにより、どのような課題が解決され、どのように目指す地域・社会に近づくか等を記載してください。</p>	<p>近い将来、東海地震・東南海地震・南海地震が来ます。建物の倒壊により多くの命が奪われることでしょう。一宮市において耐震改修工事が必要な住宅は約 33000 棟ありますが、耐震改修 (1.0 以上) が済んだのは 716 棟、簡易耐震 (0.7 以上) が済んだのは 38 棟です。解体した危険な住宅は 504 棟です。一刻の猶予もありません。地震に強いまちを目指しています。発災後は行政に頼る事が出来ません。行政に頼るのではなく、自分の命は自分で守る、という社会を目指しています。</p> <p>我々は建築のプロとして知りえた事実を伝えなくてはならないと思っています。巨大地震の発生後に「もっと耐震の重要性を伝えれば…」と後悔しても仕方がありません。ストローハウス作り体験、ストローハウス講座、耐震相談会などを通じて、市民の心に耐震改修へのきっかけが生まれれば良いなと思っています。われわれ「NPO 耐震化推進グループ」が「耐震」の意義と必要性を市民に伝えていくしかないと思っております。</p>	
<p>費用負担について</p> <p>※受益者負担が求められるかどうか、公金で実施する理由などを記載してください。</p>	<p>平成 18 年度から一宮市では無料で耐震診断を行っていますが、ほとんどの方が診断を受けていません。昭和 56 年以前の古い住宅は、大地震の時に「倒壊する可能性が高い」建物です。住人は家の老朽化に気付いてはいるが、経済的な理由で何も対策を行っていません。そのような方に費用の負担をお願いすれば、ますます「耐震」を遠ざける結果になります。つまり、受益者の負担のみで本事業を成り立たせる事は困難です。</p> <p>一宮市の耐震化の担い手として、われわれ建築のプロが無料で技術や時間を提供して事業を行っています。まさに、公金負担に相応しい事業と考えます。市民活動支援金(公金)の助けが必要です。</p>	
<p>事業スケジュール</p>	<p>時期(月)</p> <p>4月上旬</p> <p>4月下旬 ～ 3月末</p>	<p>内 容</p> <p>ストローハウス作り体験、ストローハウス講座を希望する組織や団体を探します。</p> <p>チラシ・パワーポイントなどを作成します。</p> <p>耐震相談会の数カ月前に支援センターの会議室を予約します。</p> <p>ストローハウス作り体験の実施 6 回</p> <p>ストローハウス講座の実施 2 回</p> <p>耐震相談会の実施 12 回</p>

備考 1 用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 (片面印刷) とする。

備考 2 ページ数は 2 ページまでとする。

一宮市市民活動支援事業に係る収支予算書

団 体 名 NPO 耐震化推進グループ

事業の名称 たいしん「耐震」の意義と必要性を伝える事業

収入

科 目	金額 (円)	内 訳
一宮市支援金	563,600 円	
事業収入		
自主財源	281,800 円	<input checked="" type="checkbox"/> 会費収入・寄付収入より <input type="checkbox"/> 他事業の収入より <input type="checkbox"/> その他 ( )
計	845,400 円	

支出

科 目	金額 (円)	左記のうち 支援金算出額 (円)
報償費	216,000 円	216,000 円
旅費		
印刷製本、消耗品費	260,000 円	260,000 円
食糧費		
通信費、手数料		
備品費		
人件費	329,400 円	329,400 円
使用料、賃借料	40,000 円	40,000 円
その他		
計	845,400 円	845,400 円

支出科目の内訳

科 目	金額 (円)	内 訳※ <sup>1</sup>
	支援金算出額 (円)	
報償費	216,000 円	内部講師謝礼 (ストローハウス講座) @18,000 円×2 回=36,000 円 耐震化アドバイザー (耐震相談会 12 回) @12,000 円×15 人=180,000 円
	216,000 円	
旅費		
印刷製本、 消耗品費	260,000 円	チラシ等のコピー 10,000 円 ストロー@3 円×15,000 本=45,000 円 筋カイ用ストロー@5 円×15,000 本=75,000 円、 クリップ@3 円×30,000 本=90,000 円 耐震パット・呼子笛・備蓄品 (カンパン等) @200 円×200 個=40,000 円
	260,000 円	
食糧費		
通信費、 手数料		
備品費※ <sup>2</sup>		
人件費	329,400 円	事務@900 円×5h×12 回=54,000 円、チラシ作成@900 円×5h×2 枚 =9,000 円、ストローハウス作り体験の説明員@900 円×6h×4 人×10 回 =216,000 円、耐震化アドバイザーの補助員の費用@900 円×6h×6 人=32,400 円、パワーポイント作成@900 円×20h=18,000 円
	329,400 円	
使用料、 賃借料	40,000 円	修文祭の出展料 10,000 円 会議室の使用料 @1,500×20 回=30,000 円
	40,000 円	
その他		

※1 一部が「支援金算出額」となる場合は、その該当分のみを ( ) 書きで再掲してください。

例) スタッフ費用 @1,000 円×5h×2 人=10,000 円 (@900 円×5h×2 人=9,000 円)

※2 備品費を計上する場合は、内訳欄に購入理由も記載してください。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4 (片面印刷) とする。